

KYUSHU NATURE TRAIL



2023年次 報告書

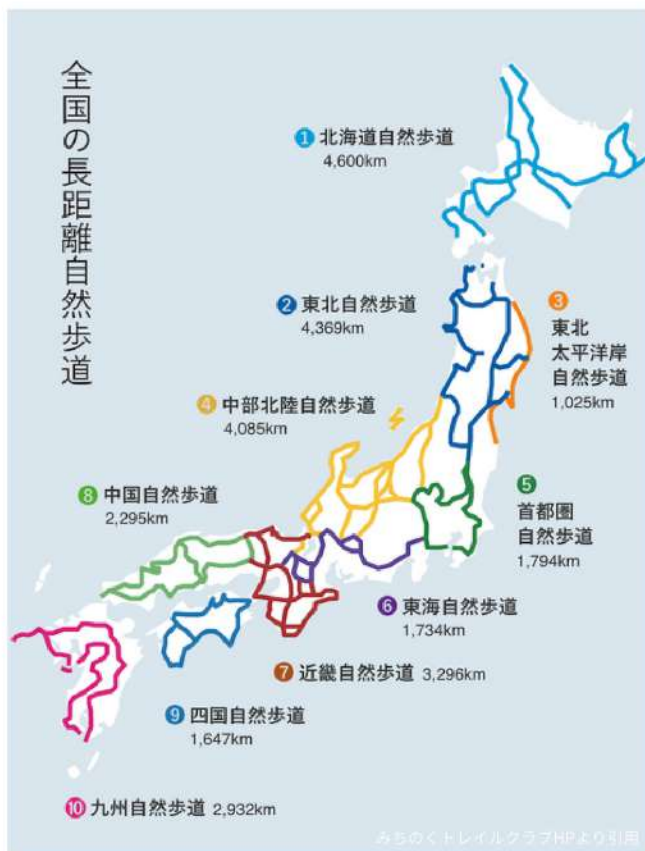
一般社団法人
九州自然歩道フォーラム

日本の「長距離自然歩道」と進化してきた「ロングトレイル」

1969年、厚生省国立公園部より提唱された長距離自然歩道構想を皮切りに、日本各地で長距離自然歩道が整備されてきた。

構想をもとに長距離自然歩道1番目として、着手されたのが「東海自然歩道」である。高度経済成長期、都市部のスプロール化が進む東京～大阪に“自然と線引き”をするために東海自然歩道ができた。気軽に自然や歴史・文化に触れられる場所としての歩道を整備。当時の社会情勢、野外レクリエーション需要に応えるため「人間性の回復」、「歩くことの復権」、「自然保護の防波堤」等の側面も持ち合わせ、歩道は愛されて今年2024年、東海自然歩道開通50周年の年を迎えた。

東海自然歩道を皮切りに、九州自然歩道、中国自然歩道、四国自然歩道、首都圏自然歩道と各地方に整備されていき、2019年に、東北太平洋岸自然歩道、通称



みちのくトレイルクラブHPより提供

「みちのく潮風トレイル」が開通し、全国10箇所、総延長は27,000kmに及ぶ長距離自然歩道が整備されている。一方で、各地方に整備されたものの、維持管理の課題は各所に見受けられる中、みちのく潮風トレイルが、官民共同でのトレイル維持管理システムの構築、地域計画としてトレイルを位置づけ、NPO法人みちのくトレイルクラブを中心に長距離自然歩道の活用の幅をさらに広げていることをモデルケースに、全国の自然歩道への先行事例として、波及させている。

「九州自然歩道」の提唱と全線開通

"観光としてのロングトレイル"を提唱した九州・山口経済連合会と、九州知事会による共同事業

1969年の長距離自然歩道構想に着目した九州・山口経済連合会（現・九州経済連合会）が、観光を目的とした“九州自然歩道”を提唱。九州地方知事会で採択され、福岡県が幹事県となり、計画案を策定、九州各県の知事名で環境庁へ要望書を提出した。東海自然歩道が開通した1975年、整備に着手。環境庁の支援を受けて各県が整備を行い、1980年に2番目のナショナル・ロングトレイルとして、総延長2,091kmの九州自然歩道が全線開通した。



観光を目的とした自然歩道のため、山や海といった自然フィールドだけでなく、太宰府天満宮や長崎の平和公園といった歴史的名所も巡りながら、九州をぐるりと周回する設定がされている。ルートを決める際に留意された点として、自然歩道にふさわしい既存道路がある場合は、なるべく利用したことが挙げられている。そのため、九州自然歩道は地元住民が利用する峠道や里道(りどう)、林道などを通っていることが多い。また、九州自然歩道はカタツムリをシンボルマークとした(上記写真)。全国から公募を行い、6142点の中から9回にわたる審査を経て選ばれた。当時、「小さいながらも自己主張

しながら自然の中でしか生きていけないカタツムリを子どもにでも親しまれるようにデザインした」と制作者の花田寛治さんは語っている。当時は、西日本新聞が上中下巻の「山びこの径九州自然歩道 徹底ガイド」を2度に渡り出版。往年の九州自然歩道開通による盛り上がりを見ることができた。

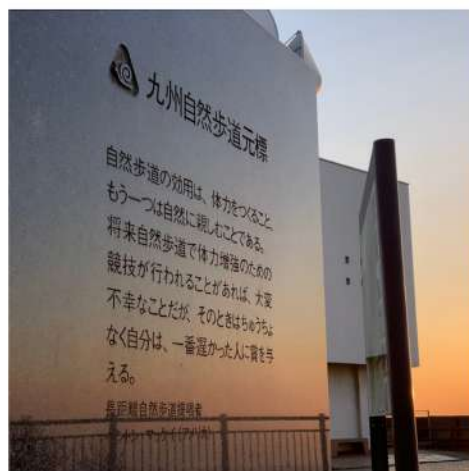
現在でも、歩道は各県が所管し維持管理を行っているものの、年数の経過に伴い、歩道上の道標や施設の老朽化、新規道路や自然災害によるルートの分断などが進むにつれて、歩道の利用が減るにつれ、認知度が低下していき、維持管理も困難を極めつつある。



「九州自然歩道フォーラム」の設立

"日本を代表するロングトレイルに" 九州のアウトフィッターたちが集結した組織設立

環境省九州地方環境事務所及び福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県の7県が市町村と連携して維持管理を行っているものの、利用実態の見えない長距離自然歩道の維持管理には困難を極めている。過去、各地域で九州自然歩道に関連した取り組みを行う民間団体はあったものの、九州一円を網羅する団体は確認できず、環境省・各県は必要なときに連絡を取り合うのみで、全体的な情報共有や発信、相互連携を念頭に置いた取り組みは行われていない現状がある。そのため、各県でバラバラの維持管理や看板設置、マップ制作が行われ、利用者からしても全体の把握、各種の情報収集が難しくなっている。そういった要因から歩道の利用状況は低迷、さらに歩道の維持管理レベルが低下、そして利用者減という負のスパイラルに陥っていると考えられている。



そんな中、ロングトレイルの文化をアメリカから持ち込み、信越トレイルの整備に従事していた加藤則芳氏が、2009年に九州へ来られ、九州自然歩道の視察を行った。整備が追いついていないものの受入体制が整えば“日本を代表するロングトレイルになる”と語り、その想いに賛同した九州各地のアウトフィッターたちが2012年8月に「九州自然歩道フォーラム」を設立。自治体をまたいだ一体的な取り組みを実現し、九州モデルの官民連携した再興を行っている。

九州7県全てを巡り、各地の“自然”“歴史”“文化”等をつなげる歩道は、今後生まれることはほぼないといえる。当時、九州自然歩道を構想・設定した九州経済連合会始め環境省、各県、地域の方々の熱意と取り組みは、素晴らしいものだった。この九州の誇りである九州自然歩道を残し、地域の資源として、活用していくことが、“九州をつなぐ自然と歩ける道”となる。環境省・各県を筆頭に、市町村や地域で暮らし風景を続けてきた地域住民の方々、そして歩きに来てくれている世界中の歩き人とともに、これからも続く道づくりを行う。

九州自然歩道のセクション

九州の名峰、歴史的な名所、文化圏を巡る歩道

九州自然歩道は、九州7県をぐるりと巡る歩道が設定されている。北の起終点は、福岡県北九州市の皿倉山山頂。こちらは、起点を示す石碑「元標」が設置され、アメリカの長距離自然歩道提唱者であるベントン・マッケイ氏の言葉が刻まれている(左ページ写真参照)。1980年の全線開通式も皿倉山山頂で行われた。福智山や平尾台を通り英彦



山で、東ルート及び西ルートに分岐。東は、大分・宮崎経由で鹿児島へ。西は、佐賀・長崎・熊本を経由し鹿児島に入る。南の起終点は、鹿児島県南大隅町の九州本土最南端に位置する佐多。



九州をぐるりと設定されている歩道の他、五島列島等の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産へ登録される際に、平戸市や五島列島へ九州自然歩道を延長。総延長距離が約3,000kmとなった。



九州自然歩道沿線には、「九州自然歩道利用拠点施設」として、5箇所のセンターが整備された。宮崎県綾町のトレイルセンターは休業中だが、他4箇所はシャワー室やキャンプ場が併設され、九州自然歩道のマップなどの展示スペースもあり歩道を歩くハイカーたち、地域の方々の憩いの場となっている。

- ・ 隠居岳ウォークスパーク (佐世保市)
- ・ 田代原トレイルセンター (雲仙市)
- ・ 金峰森の駅みちくさ館 (熊本市)
- ・ 輝北町トレイルセンター (鹿屋市)
- ・ 綾トレイルセンター (綾町)

団体概要

団体情報

一般社団法人九州自然歩道フォーラム

〒810-0023 福岡市中央区警固2-1-6 宇田ビル206号室

TEL：092-600-4399

MAIL：info@kntf.jp

  @kyushu_nature_trail2108

組織構成

アドバイザーチーム

相澤久美氏（NPO法人みちのくトレイルクラブ 常務理事、
（一社）トレイルブレイズハイキング研究所 常務理事）
江副直樹氏（ブンボ株式会社 代表取締役）

理事会

代表理事



野元 尚巳
かごしまカヤックス
代表

副代表理事



山口 久臣
（一社）IOE
代表理事



成崎 聡
NPO法人ひむか感動体験ワールド
事業部長

事務局

福島 優 事務局長
（キッチンハイク九州 代表、(同)Trailhead 代表）



九州自然歩道フォーラム理念

九州をつなぐ 自然と歩く道づくり

九州7県をつなぐ九州自然歩道を
“自然と触れ合える道”
と
“自然と歩きたくなる道”
へと再興していく

5つの経営方針

- ①九州自然歩道をベースとした各地域での歩く文化の醸成
- ②九州内のトレイルに関する総合的な中間支援事業
- ③“歩く事業”の企画と創造と普及
- ④自然環境、自然体験活動を活用した事業
- ⑤総合的なツーリズムに関わる事業

目標

- 全県でのルートの見直しと活用
- 環境省・福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県・各市町村・利用団体との情報共有体制の構築と活用
- 各種企業との連携・協働企画の実施
- 主催事業の実施



過去の活動実績

九州全域

- 九州自然歩道管理者アンケート調査(2012)
- 道標(みちしるべ)プロジェクト(2012)
- 西日本新聞「あるこ！」連載(2013～)
- 九州自然歩道管理活用・基盤整備事業(2013)
- 7県担当者ヒアリング(2013)
- 関係者ヒアリング(2014)
- 九州自然歩道活用促進事業(2014)
- 「.HYAKKEI」に連載(2015～2016)
- 「国立公園10月号」寄稿(2017)
- CATS観光創造研究会講演(2018)
- FBS開局50周年記念番組「九州1周ヤマトホ！」(2019～2020)
- 「みちのく潮風トレイル」全線開通記念式典・シンポジウム(2019)
- 「長距離自然歩道構想50周年記念シンポジウム」講演(2019)
- 「九州自然歩道40周年記念シンポジウム」共催(2020)
- (公社)日本環境教育フォーラム「地球のこども」寄稿(2021)
- 「清里ミーティング」講演(2021)
- 「ロングトレイル懇談会」招聘
- 令和3年度自然歩道関係功労者受賞(2021)
- 「Trekitchen2023」協力(2023)

福岡県

- 第2回九州ロングトレイルミーティング(2011)
- 「里山・田園保全リーダーミーティング」講演(2012)
- 第3回フォーラムミーティング(2012)
- 第1～3回九州自然歩道ウォーク(2013)
- 福岡県コース現地踏査(2013)
- 第6回フォーラムミーティング(2013)
- 福智山管理作業イベント(2013)
- 「アウトドアシティ福岡2014春」出展(2014)
- 「パタゴニアスピーカーシリーズ」講演(2014)
- 「福岡の山のトイレ、環境を考える会」講演(2015)
- 「福岡女子大学環境経済学研究室」講義(2015)
- 「フレッシュマンカレッジ」講演(2016)
- 「せふりトレッキング満ぶくツアー」ガイド(2016)
- 「造園学会九州支部」発表(2016)
- 「ジョン・ミューア・トレイル報告会in福岡」主催(2016)
- 第10回フォーラムミーティング(2016)
- 「好日山荘福岡バルコ店」机上講座(2017,2018)
- 「ふくおか登山フォーラム」講演(2018)
- 「夏山フェスタin福岡2019」ブース出展(2019)
- 「ソーシャルビジネスフォーラム」講演(2019)
- YAMAP英彦山ルート開発(2021)
- 福岡県九州自然歩道親子向けトレッキングイベント事業(2019～2022)
- あったがわの旅・九州自然歩道トレッキングガイド(2015～)
- 「夏山フェスタin福岡2023」講演(2023)
- 「インターナショナルエアアカデミー」講演(2023)

佐賀県

- 第8回フォーラムミーティング(2015)
- 佐賀県コース現地踏査(2016)
- 太良町安全講習会(2022)
- 多良海道・街道案内人育成講座(2023)
- サガノアソビ(株)会社案内制作(2023)

大分県

- 第4回九州自然歩道ウォーク&ロングトレイルナイト(2013)
- 大分県コース現地踏査(2015)
- くじゅうフェスタin長者原(2014,2016,2019)
- 「山の日」制定記念in大分・くじゅう(2015)

長崎県

- 北部3県勉強会(2016)
- 長崎県コース現地踏査(2017)
- 高岩山トレッキングガイド(2019)
- 島原半島の九州自然歩道調査及びトークイベント(2023)

宮崎県

- 九州環境教育ミーティング(2012)
- 造園学会九州支部大会(2012)
- 第7回フォーラムミーティング(2014)
- 宮崎県コース現地踏査(2017)
- 「国立・国定公園をつなぐ九州自然歩道の新しい一歩づくり事業」補助(2021)
- 九州自然歩道魅力ステップアップ事業「ヒアリング補助」(2022)
- 福本玲央オンライン写真展「gentle」トークイベント登壇(2022)
- 九州自然歩道ステップアップ事業「祖母山ツアー」(2022)
- 「綾町トロッコ道再生フォーラム」講演(2022)
- 九州自然歩道ステップアップ事業「道なおしワークショップ」(2023)

熊本県

- 九州ロングトレイルミーティング(2011)
- 九州自然歩道意見交換会(2011)
- 南阿蘇の九州自然歩道歩き(2011)
- 第1回フォーラムミーティング(2012)
- 第4回フォーラムミーティング(2013)
- 第5回九州自然歩道ウォーク(2014)
- 第9回九州自然歩道フォーラムミーティング(2015)
- ビジターセンター意見交換会講演(2016)
- WaWくまもと構想策定委員(2017)
- 第11回九州自然歩道フォーラムミーティング(2017)
- 第12回九州自然歩道フォーラムミーティング(2019)
- 「WaWくまもとネットワーク設立記念大会」講演(2020)
- 熊本県コース現地踏査(2018～2023)
- 「人吉球磨地域における九州自然歩道利活用」アドバイザー(2021～)

鹿児島県

- 鹿児島県コース現地調査(2007)
- 鹿児島ミーティング(2012)
- 第2回フォーラムミーティング(2012)
- 第5回フォーラムミーティング(2013)
- 「世界自然遺産 奄美トレイル」講演(2017)
- 「白紫池湖面利用ルール運用」(2021～2022)
- 鹿児島県コース現地踏査(2023～)

2023年度 事業一覧

- 01 「あるこ！～九州自然歩道の旅～」連載
- 02 〔歩道調査〕 熊本県美里町～鹿児島県伊佐市
- 03 〔歩道調査〕 国東半島峯道ロングトレイル
- 04 人吉球磨地域における九州自然歩道利活用
- 05 島原半島の九州自然歩道調査及びトークイベント
- 06 宮崎ステップアップ事業・道なおしワークショップ
- 07 あったがわの旅企画運営事業
- 08 〔講演〕 夏山フェスタin福岡
- 09 〔講演〕 多良海道・街道案内人育成講座
- 10 〔講演〕 インターナショナルエアアカデミー
- 11 〔協力〕 Trekkitchen2023
- 12 〔制作〕 サガノアソビ(株)会社案内

2023年度 事業報告

01

連載「あるこ！～九州自然歩道の旅～」

西日本新聞より受託。事業費24万円。2013年8月より連載中の新聞紙面における体験記。毎月第1水曜日朝刊に連載中。福岡県から始まり、大分・佐賀・長崎を歩き、3月時点で熊本県山都町に到達。

成果：42万部発行の西日本新聞朝刊に連載（24年3月時点で、連載122回）
継続的な九州自然歩道PRの機会



02

歩道調査・熊本県美里町～鹿児島県伊佐市

自主事業11年目

九州自然歩道全線定期調査。2023年度は熊本県美里町三和交差点から鹿児島県伊佐市の牛尾公民館までの約160kmの調査。一部通行止め箇所やルート提案を熊本県自然保護課へ提案。福島が担当。

成果：現況把握及びGPSデータの取得。



03

歩道調査・国東半島峯道ロングトレイル

各地のロングトレイル調査。

大分県の国東半島を巡る120kmのロングトレイルを4泊5日行程で実施。中日の突然の降雪により、調査中断。野元・福島が担当。

成果：ロングトレイル関係者との交流。



04

人吉球磨地域における九州自然歩道を軸とした ツアーコンテンツ検討業務

熊本県自然保護課>ランドブレイン(株)より受託。3年目。事業費110万円。
人吉球磨10市町村の復興に向けた九州自然歩道見直し業務に伴うコンテンツ開
発事業。フォーラムHP内に本事業特設ページを制作。山口及び福島が担当。
成果：3種のコンテンツ開発及びモニター実施

自治体も含めた会議を開催し、次年度に向けた協議会設立の足がかり



05

島原半島の九州自然歩道調査及びトークイベント

環境省雲仙自然保護官事務所>(一財)自然公園財団雲仙支部と協働。事業費70
万円。半島内の歩道調査を行い、GPSデータや現況把握。また、海外のロング
トレイルを歩いたハイカーを招いて、雲仙お山の情報館にてトークイベントを
開催。成果：半島内約60kmのGPSデータ及び現況写真等を把握

トークイベント27名参加

トークイベント前後に九州自然歩道を歩き始めた方3名



06

九州自然歩道魅力ステップアップ事業（道なおしWS）

宮崎県自然環境課補助事業。補助60万円。高原町の霧島東神社及び高千穂町の
音の谷自然歩道にて、道なおしワークショップを開催。成崎・福島が担当。

成果：地域の関係者との協働

道なおしワークショップ開催



07

あったがわの旅企画運営事業

福岡県政策支援課>(一社)田川広域観光協会より受託。10年目。事業費15万円。
「あったがわの旅」赤村・福智山2つの九州自然歩道イベントのガイド。
成果：赤村30名、福智山22名の計52名の参加者



08

〔講演〕夏山フェスタin福岡2023

夏山フェスタin福岡2023実行委員会より受託。
「九州をつなぐ3,000kmのナショナルロングトレイル」をテーマに講演。九州自然歩道の歴史や取り組みをご紹介できた。福島が担当。
成果：210名の来場者(委員会統計)
登山業界への九州自然歩道周知



09

〔講演〕多良海道・街道案内人育成講座

歴史の道観光・文化交流推進協議会より受託。
諫早・太良間をつなぐ「多良海道」の活用を目指した案内人育成講座にて、午前中に現地視察、午後九州自然歩道等の取り組みを紹介。福島が担当。
成果：17名の参加者
太良町・諫早市との連携強化

10

〔講演〕国際エアアカデミー授業

(一社)ワンヘルスライフ協会より受託。
福岡県を中心に取り組んでいる「ワンヘルス」に関する全3回のうち、1回を受託。ワンヘルスと九州自然歩道の親和性について講演した。福島が担当。
成果：国際エアアカデミー学生への九州自然歩道周知
ワンヘルスライフ協会との連携強化

11

〔協力〕TrekKitchen2023

山學舎及びキッチンハイク九州共催のトレッキングイベントへの協力。
成果：イベント開催地として九州自然歩道の利用

12

〔制作〕サガノアソビ(株)会社案内

サガノアソビ(株)より受託。
唐津市中心にアウトドアアクティビティを提供する「太陽アウトドア」の会社案内制作。福島が担当。
成果：会社案内の制作

生態系回復を目指した登山道整備 道なおしワークショップ

阿蘇山道整備・渡邊裕介氏が実施している、生態系の復元や安定した土壌環境をつくることを目的とした登山道整備法を用いて、登山道の整備を行いました。



初めは、座学。
登山道整備の目的や考え方をお伝えします。



整備を始める前に、自然環境の把握。
どのような整備が良いか検討します。

登山道等、自然道は、地形や気候、人の往来が起因して侵食が起き、荒れていきます。それらに対して一律的な施工は自然環境へ大きく影響を及ぼします。道なおしワークショップは、その土地の自然環境、水の流れ、人の歩き方等の視点で、どのような工法がbestなのかを判断し、登山道沿いにある倒木や石、砂利等を使用し、生態系の回復を目指し、登山道を整備していきます。第一目的としては「歩きやすさではなく、植生回復を目指すこと」とされ、自然景観に配慮(自然の状態に戻す)ことを重視します。そのために、人が歩いても自然への負荷がかかりづらい整備を目指しています。



様々な道具を用いて、自然に合う登山道へ
整備を行っていきます。



整備完了は始まり。ここで雨や路圧等、時間が
経ち自然に溶け込んでいる状態を目指します。

九州自然歩道では、自然本位の登山道整備を目指し、九州各地で取り組んでいきます。登山道整備に取り組みたい地域、団体方はぜひ一緒に取り組んでいきましょう。

2024年度の目標

九州自然歩道フォーラムは、今年で12年目を迎えます。私たちは、より大きな行動力を持ち、九州地域における自然保護と持続可能な活動の促進に向けて、今年度の抱負を以下のように決めました。

地域との緊密な連携構築

01

環境省九州地方環境事務所および各県の担当者と緊密な連携体制を築きます。地域の現状を共有し、持続可能な取り組み事例を報告します。さらに、現場でのヒアリングや相談を通じて、協力体制を強化し、地域社会にポジティブな変化をもたらします。

自立した財源の確保

02

委託に頼らず、持続可能な収益源を開発・拡大するための自主事業に力を入れます。魅力的なプロジェクトやセミナーを展開し、地域の人々に価値を提供します。今年度の目標は、自主事業による経済的な持続性を目指します。

長期的なビジョンの設定と計画

03

九州自然歩道フォーラムの成長と持続性を確保するために、2030年度に向けた事業計画を練ります。具体的なプロジェクトを3つ選定し、関連するステップやタイムラインを明確化します。これにより、長期的な戦略を持ち、効果的なプログラムの実現に向けて邁進します。

2027年度の目標：3年後に向けて

1. 自主事業による売上の拡大

自主事業の充実を図り、売上200万円（全体売上の目標は500万円）を目指します。持続可能な収益源の開発に注力し、より多様なプロジェクトを展開して地域社会への価値を提供します。

2. 九州7県でのプロジェクト展開

九州地域全体での活動範囲を拡大し、九州7県すべてでプロジェクトを展開します。自然保護と持続可能な活動の推進に取り組むことで、九州の豊かな自然環境を広く守り、地域の魅力を高めます。

3. 環境省及び7県の担当者が集まる連絡協議会の設立と運営

環境省および7県の担当者が集まり、意見交換や連携を行うための連絡協議会を設立し、運営します。これにより、より緊密な協力関係を構築し、持続可能な自然歩道の推進において政府機関との連携を深めます。

謝辞

2023年度も、自治体の皆さま、各地域の事業者の皆さま、ガイドの皆さま、そして多くの方々のご支援のおかげで、(一社)九州自然歩道フォーラムはさらなる取り組みを展開し、九州自然歩道の再興に一步近づきました。

この機会に、心から感謝申し上げます。皆さまのご協力とご支援によって、私たちの活動はより効果的で意義あるものとなりました。改めて、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後も九州自然歩道フォーラムは、より一層の発展を目指し、九州の豊かな自然環境を守り、地域の魅力を高めるための取り組みを続けてまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(一社)九州自然歩道フォーラム
代表理事 野元 尚巳
副代表理事 山口 久臣
副代表理事 成崎 聡
事務局長 福島 優
アドバイザー 相澤久美氏
江副直樹氏

九州自然歩道フォーラム発足時の呼びかけ人
加藤則芳氏、新村史明氏、志賀壮史氏、税田裕子氏、
岡野隆宏氏、成崎聡、山口久臣、野元尚巳

日頃より緊密にご協力いただいている皆さま
九州自然歩道みやざきハイキングクラブ
(一社)トレイルブレイズハイキング研究所
山學舎
阿蘇山道整備
あそBe隊

(敬称略・順不同)

日頃より九州自然歩道の維持管理にご尽力いただいている担当部署

環境省 九州地方環境事務所 国立公園課
福岡県 環境部 自然環境課 自然公園係
佐賀県 県民環境部 有明海再生・自然環境課
長崎県 県民生活環境部 自然環境課 自然資源活用班
熊本県 環境生活部 自然保護課 自然環境・公園班
大分県 生活環境部 自然保護推進室 自然保護班
宮崎県 環境森林部 自然環境課 自然公園室 自然公園担当
鹿児島県 環境林務部 自然保護課 (2024年4月より)

九州自然歩道憲章

— 「九州自然歩道」の再生と保全と活用への指針—

●九州自然歩道のあり方

- ・九州自然歩道の基本は、7県をつなぐ一本のシンプルな線であり、シンボルである。
- ・多種多彩多様な利用者のニーズにこたえるトレイルとする。
- ・人と人とを結びあう「絆」のトレイルとする。
- ・それぞれの地域、自治体は、個性は出しても必ず全体像を意識して行動する。

●九州自然歩道の目的

- ・豊かな自然や歴史・文化を地域の人たちが再認識し、九州と云うふるさとへの誇りと愛情を持ってもらうことを目指して行動する。
- ・生物多様性を十分に理解・認識して保全と活用の両面から整備するシンボリック的存在とする。

●九州自然歩道の整備と保全と維持・管理

- ・九州自然歩道を歩く人たちの物語性や夢とロマンと冒険を意識した整備を行なう。
- ・持続可能な活用のための維持・管理と保全活動を国、自治体、民間団体の連携・協働で行う。
- ・環境への負荷を極力軽減するために定期的、持続的な環境調査を連携・協働で行う。

●九州自然歩道の再生と保全と活用への連携と協働

- ・国、自治体、民間団体との緊密なる連携と協働のもとにトレイルづくりを行なう。
- ・国、自治体、民間団体が主導しつつもかつバックアップにも徹する。

